【南新井自治会 住民の意識調査プロジェクト】

住民の意識調査
アンケート調査結果およびご提案

2021年3月3日

SERVICE GRANT

内容

1．アンケート結果から見えた課題と改善施策の方向性

- ❑ 確実な加入案内/加入障壁を下げる案内の実施
- ❑ コミュニケーションツールの充実
- ❑ 防災を軸としたイベント・活動へのシフト
  - ～ 自治会未会員も「参加できる/会員と大差なくメリットを受けられる」防災イベント
  - ～ 住民主体の持続的な地域共助活動を目指す仕組み
  - ～ 防災活動と防災意外の活動をバランスよく実施
- ❑ 負担を軽減＆活動活性化のための運営体制
  - ～ 役員の負担軽減の取り組みと会員区分
  - ～ 広報委員会・イベント委員会

（別添資料）

- ❑ アンケート集計結果

SERVICE GRANT
Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

課題と改善施策の方向性

	加入前		加入後		
課題	加入案内が行き届いていない	活動内容がうまく伝えられていない	イベント・活動の内容がよく分からない	イベント・活動の評価は高いが、運営の負担が大きい	四役・組長の負担が大きい
改善案	**確実な加入案内の実施**	**コミュニケーションツールの充実**		**防災を軸としたイベント・活動へのシフト**	**負担を軽減 & 活動活性化のための運営体制**

従来の自治会活動を見直すことにより、加入後の満足度を上げるだけでなく、加入を迷う人に対して防災への興味を維持したまま加入障壁を下げることができる

四役、組長、イベント運営等の負荷軽減活動 → DOWN

充実した防災イベントの開催 → UP

SERVICE GRANT

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

確実な加入案内の実施について

未加入者への自治会周知方法について

自治会加入者を増やすために、どのような接点を使えばいいか、各接点で何をどのように伝えたら良いかを中心に検討しました。

定性・定量調査から見えた加入までの課題	改善方向性
自治会の加入案内が漏れている人がいる	人に頼るだけでなく、その他接点を創出する
自治会役員への負荷の高さが加入のハードルになっている	役員等の負担を少なくし、加入前からその情報を伝える
自治会が何をやっているか分からない（メリットが伝わっていない）	比較的興味の強い「防災」をフックに未加入者との接点を創出する

１回の接点で情報を詰め込むのではなく、上記改善の方向性を使って徐々にコミュニケーションをとり、自治会加入の意欲（役員の負荷に対する加入躊躇を上回る）を醸成させる

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

今回特に加入促進を狙いたいターゲット像

ゴール：家族の時間を豊かにしたい

ターゲットを明確にすることで、各接点で伝えるべきメッセージが明確になる

佐藤　祐樹（38）

・都内のメーカー勤務
・36歳の妻と5歳の子供と３人暮らし
・２週間前に南新井自治会地区に引っ越し
・妻は派遣社員として平日9時ー17時で勤務

・子供が来年小学校に上がるので、マンションから戸建てに引っ越した
・今まではマンションにしか住んだことがなく、初めての戸建て
・休日は、家族で近場のスーパーや公園などドライブに行くことが多い
・自治会とは大変そうだなくらいのイメージで、そもそも何かを分かっていない

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

自治会加入までの接点と伝えるべきこと

	きっかけ	認知	プレ参加	詳細理解	本参加
行動	・引越してきたから、ライフラインの手続きを行う ・役所に転入届を出す	・チラシやHPを見て地区を知る ・浅川の氾濫危機から防災に興味を持つ	・家族で防災イベントに参加する ・子供も楽しめるイベントがあり安心する ・地域防災を理解する	・自治会HPで自治会員について確認する ・会費や役員について知る	・自治会会員登録する ・LINEのオープンチャットに参加する
感情	色々地域のことがわかるチラシもらった。長く住むし読んどこうかな	・浅川氾濫とか怖い ・自治会に入らなくても防災イベント参加できるなら行ってみようかな	・自治会ってこんなイベントしてくれるんだ ・防災の事分かった ・会員専用のイベント気になるな。案内してくれそうだけど家でじっくり調べたいな	・会費の使い道わかって安心 ・役職ついてもフォロー手厚そうだし、自分にもできそう ・防災イベントも充実してて安心だな ・いつでもやめられそうだし登録してみよう	・簡単に登録できた ・オープンチャットなら、本名知られずやりとりできるし安心だな
タッチポイント	・ライフライン業者にもらうチラシ ・役所で貰うチラシ ・ポストにチラシ	・チラシ ・自治会HP	・防災イベント	・自治会HP	・自治会HP 会員登録導線 ・LINE
要件	・引越し契機の接点での認知 ・HPへのリンク先 ・地域の情報を取れるLINE公式アカウントへの入り口 （不審者情報とか掲載しているなど）	・自治会とは ・防災の必要性 ・防災イベント ・未会員も参加OK	・子供向けイベント ・自治会会員のみの情報やイベント └普段の防災訓練は参加できるけど、有事の際は会員の方がメリットあるなど ・会員登録案内所	・会費（使い道） ・会員のメリット └防災など ・役職の負荷（軽さ） ・会員の気軽さ →賛助会員	・自治会HP 簡易な会員登録 LINE公式、オプチャの説明と登録導線 ・LINE 公式アカウントの利用方法

防災

役員負荷

情報活用

SERVICE GRANT

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

制作物イメージ　～ チラシ ～

ようこそ！
南新井自治会のご案内

ご覧いただきありがとうございます。南新井自治会についてご紹介します！

そもそも自治会とは？

自治会とは、住民同士が助け合って**住みよい地域社会**を作るためにあります。
地域コミュニティの核となる重要な活動団体です。

南新井自治会について

「地域に在住する会員相互の親睦を図ると共に、地域住民の安全と福祉、子ども達の健全な育成、高齢者の福祉に寄与する」ことを目的として活動しています。
現在、**○世帯（△%）の人に加入**いただいており、住みごこちの良い地域にしていくために、防災活動を中心に活動をしています。

南新井自治会の３つの特徴

主に以下の活動に力を入れています。毎回、地域の皆様にご好評いただいています。

防災
令和元年の台風19　による浅川氾濫危機などの経験から防災に力を入れています。防災情報やイベントも開催しています。

イベント
南新井祭りや芋煮会など地域の皆様と楽しめるイベントも開催しています

ふれあいサロン
地域の皆様が気軽に集まれるふれあいサロンを運営しています。

南新井自治会の情報について

自治会未会員の方も
お気軽にご覧ください

★公式HPには、詳しい活動内容や情報が更新されています！
HP　https://sites.google.com/view/minamiarai/home

★公式LINEは、リアルタイムに地域の情報が更新されています。
不審者情報なども確認できるので、この機会にお友達に追加ください

友だち追加

自治会の加入方法は、上記HPもしくは以下までお問い合わせください．

比較的若い層は自治会についてを知らない方もいるので、簡単に説明を行う

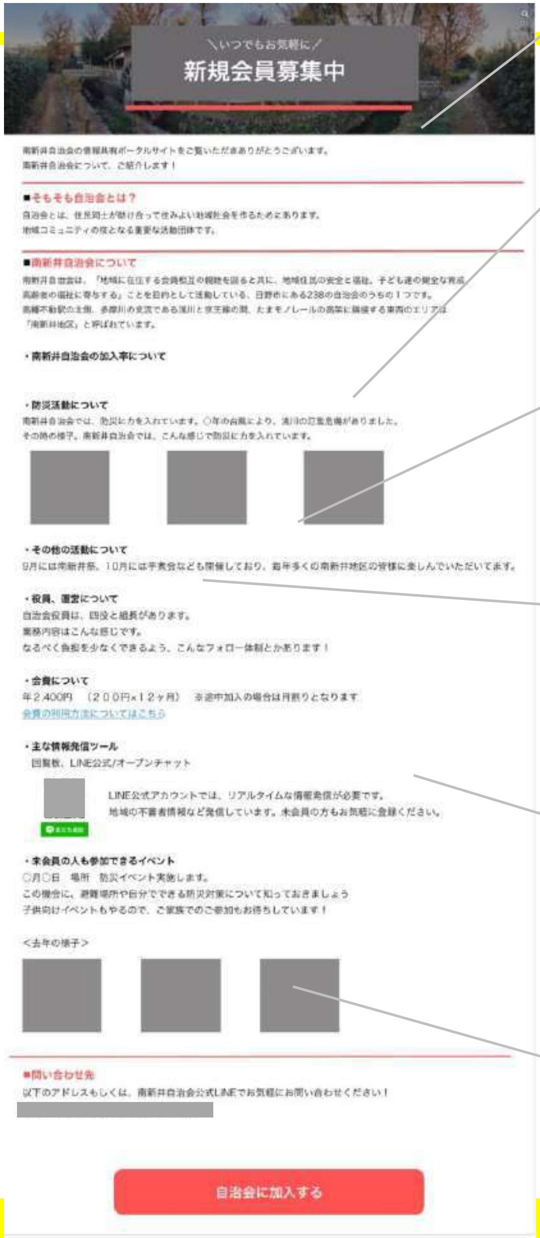
南新井自治会の加入率を示し、
多くの人が加入している安心感を持ってもらう

３つの特徴を端的にあげ、
何をしているか理解してもらう

チラシだけでなく、HPやLINEで継続して接点をつ導線を設ける。
LINEは、家族世帯にも気になる「リアルタイムな地域情報」などを記載し興味を持ってもらう

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

制作物イメージ　～南新井自治会HP～



比較的若い層は自治会についてを知らない方もいるので、簡単に説明を行う

写真で多くの人が参加していることを知ってもらい、イベントに来やすくする（特に未会員の人が興味を持っていた防災をメインに訴求）

四役という役割はあるが、想像よりも負担が少ないことを理解してもらえるような内容を記載する

会費は、使い道まで知りたい人のために利用方法のわかるページへ遷移できるようにする

南新井自治会公式LINEを訴求し、HP以外の接点を創出できるようにする。チラシ同様、家族世帯にも気になる「リアルタイムな地域情報」などを記載し興味を持ってもらう

興味を持っている人も多かった防災イベントを未会員の人も参加できるようにし、自治会活動を知ってもらう、接点を持つ機会を創出する。さらにHPで告知を行う

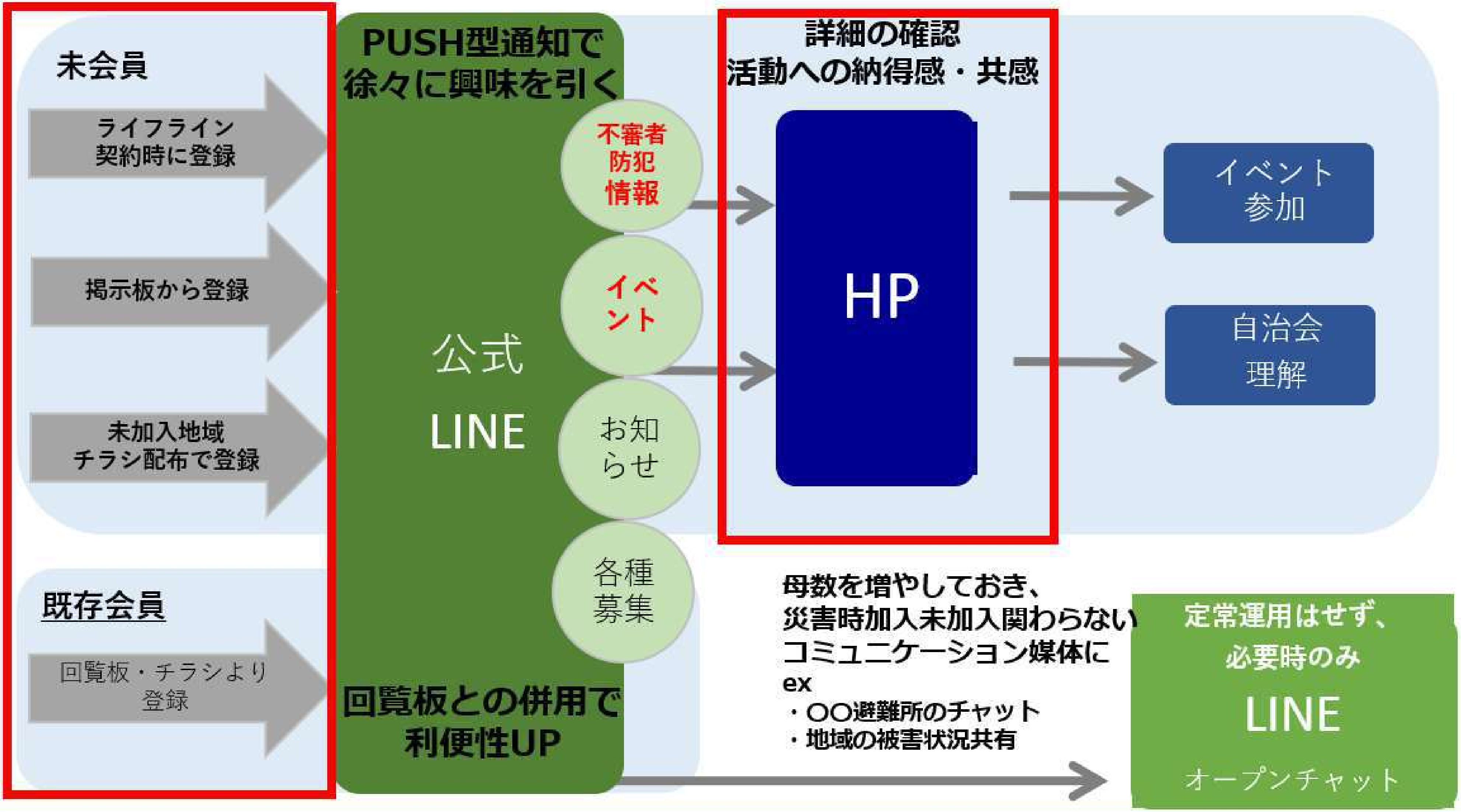
SERVICE GRANT

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

コミュニケーションツールの充実について

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

LINE/HP運用の位置付け



HP：内容拡充 / LINE：母数増やし、有益な情報発信しHPに流入、参加に繋げる

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

HP：内容拡充

●現状

情報量としては充実しているが、未加入者が見た際に活動のメリットを十分に伝えられていない。（アンケートの未加入者の意見：活動が不明、加入方法が不明、四役の負担が加入の障壁）

●改善案

・活動主旨がシンプルにわかるページ

・活動全体像・年間スケジュール(加入メリット)

・四役・組長などの役割、仕事内容(+簡略化に取り組んでいる旨も)

・収支報告(自治会費の使い道の開示)

・なぜ防災に注力しているのか、などのメッセージ・想い

・子育て層の写真付き活動報告で未加入ファミリー層に親近感、訴求

●他地域のHP事例：　八千代緑ヶ丘西自治会

https://midorigaoka-nishi.chiba.jp/

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

LINE

●現状

他の自治会と比較しても格納されている情報量は多いが、
自ら目的を持って探しにいかないと情報が得られない。
拡充したHPを元に情報発信を行い、興味を持ってくれる人を増やす。

●活用案

内容	目的・メリット
防犯情報発信 (地域の不審者情報など)	忙しいファミリー層も手軽に情報が得られる(特にお子さんがいて防犯を気にする層にメリットを感じてもらう)
イベント情報の発信	未加入者の参加のきっかけにしてもらう
写真つき活動報告	似た層が参加していることを知って興味を持ってもらう

SERVICE GRANT

Copyright©2017 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

防災を軸としたイベント・活動へのシフト

～自治会未会員も「参加できる/
会員と大差なくメリットを受けられる」
防災イベントについて～

SERVICE GRANT
Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

防災会の活動 – 自治会未会員に対して

❖ 防災会の活動の入り口はオープンに（会員も未会員も参加自由に）：

自治会未加入者に対しても告知が可能な媒体（掲示板（HP、LINEのQRコードも記載）HP、LINE）で、広く呼びかけを行える活動であれば参加自由とする

（自治会員（会員情報がある方）でないと実際の参加が難しい活動がある場合、活動情報はHP上で公開。）

- **防災活動に関しては自治体からの資金サポートもあり、会員・未会員の壁を作らない方向で始める**
- **防災活動の場を、自治会活動の広報の場（加入の促進のためのタッチポイント）として活用する**

❖ 自治会HPで、決算報告、事業報告などの開示を継続し、自治会活動の理解の促進を図っていく

「自治会に加入していないが行事に参加できる？」
ポイント！ 未加入だからと差をつけることなく、手始めにイベントに参加してもらうとその後の加入につながる可能性があります。

*自治会加入・未加入を問わず、誰でも気軽に参加してもらえるイベントを行う ⇒ 参加者が増える ⇒ 多くの人に町内会への関心を持ってもらえる ⇒ 加 入者や活動参加者が増える ⇒ 自治会の活性化と役員候補の増加へとつながる

ただ乗りする人も…?

❖ 会員と未会員の差別化 ～ 防災イベント以外の方法で
- 会員（およびボランティア参加者）にはイベントでの景品や、地域商店の割引券等の配布
- 未会員からは若干のイベント参加費を徴収

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

防災会の活動 – 自治会未会員に対して

防災活動の場を、自治会活動の広報の場として**活用する**；

○ **自主防災会の活動とその位置づけを説明し、住民の理解を図る**

- 自治体の役割との関係

  ～「日野市は、災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、災害予防、災害応急対策及び災害復旧に関する事項を定め、防災対策を総合的かつ計画的に実施しています」

  ～「一方で、実際の災害時には平常時のような行政サービスは難しくなります。地域の自主防災組織が機能することによって、その困難を乗り越えることになることを期待されています。

- 自治会組織や活動との関係 ～ 自主防災会の会長が自治会長であり、その他各役割をもって編成する防災組織は自治会員によって構成されています

○ **実際の災害時には自治会員であることが助けにもなることを説明し、加入促進を図る**

- 自治会加入相談・申込コーナーを設置
- 自治会活動を説明したチラシ配布など：防災対策の必要性を説く

  ～「自治会員になっていただくことによって、自治会として救援救護対象者の把握が可能となり災害時に適切な対応ができます」

  ～「いざというときには、行政が助ける「公助」よりも、近隣で助け合う「共助」のほうが助かる命が多いとも言われます。自治会は、その助け合える近隣の関係づくりを担います」

  ～「また、災害以外でも地域の安全・安心を住民の皆さまと一緒に支えていけるよう活動に取り組みます」

長期未加入者や退会したいという人には、単に自治会のメリットだけでなく、「お互いさま」という共助の意識を持つことで安全安心が向上する点も強調するとよいでしょう

Copyright©2017 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

防災を軸としたイベント・活動へのシフト

～ 住民主体の持続的な地域共助活動を目指す仕組み ～

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

2．防災活動 – 地域共助のあり方

防災のあり方

災害の被害を最小限に抑えるためには，「自助（自分の命は自分で守る）」，「共助（地域住民による助け合い）」，「公助（公的機関によって提供される援助）」がそれぞれ連携することが重要である。特に，大規模災害発生時においては，地域住民一人ひとりが地域を守るのは自分たちであるという固い信念と連帯意識の下に，表２－１のような活動を行うことが必要不可欠であり，また，平常時においても，避難訓練や防災資機材の整備など，地域の災害対応能力を高めていく核心は，地域コミュニティが担う「共助」にあると言える。

表２－１災害発生時の共助の役割

災害発生からの時間	共助で受け持つ役割
災害初期（災害直後）	収集伝達 避難誘導 救出・救護活動
災害中期（避難所到着後）	避難所開設
災害後期（避難所生活）	炊き出し等

- 地域コミュニティにおける自主防災力には地域格差
- 実際に災害が発生した時に、行政の救助が入るまでは自助・共助で対応する必要がある。地域で防災活動を行い、自主防災力の底上げが必須
- 行政側の防災策（ハザードマップ等）の住民の認知度は低い。行政主導による地域防災力の強化も課題
- 地域に内在する災害リスクは異なるため、住民が地域に内在するリスクを見つけ、それを認識した上で対応策を考えていく必要がある。

出典: http://www.ibaraki-jichiken.jp/pdf/H25/25gyouseikadaihoukokusho/houkokusho2_.pdf

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

2. 防災活動 – 住民主体で持続的な活動を目指す仕組み

アンケート結果から見えたこと	
自治会に対する心理的ハードル	時間がない 役員や組長の負担 メリットが感じられない 活動内容が分からない
地域イベントへの期待	交流、共有できる楽しみ 子育て世代 - お祭り シニア世代 - ふれあいサロン、旅行
防災に関する意識	地域での共助の必要性を感じている 訓練活動への参加意欲は高い 自助と共助の両方を認識 地域防災に何が必要か正しい知識を得たい
その他の課題	高齢化に対する要配慮
運営上の課題	役員の負担 役員が短期で交代

防災 ＝ 世代を超えて地域で共有できる目的

多くの住民が参加し主体的に、地域に必要な
『自助＋共助』の体制を作り上げていくことを目指す

対策案 - 住民主体で持続的な活動を目指す仕組み

多くの住民が参加し、地域に必要なものを主体的に作り上げていく

i) 防災教育×イベント

①子供（~小学生）・子育て世帯向けイベント

②防災ワークショップ・訓練による住民の連帯感を育成、参画を促進

③高齢化への対応

ii) 外部関係者との連携

○ NPO団体等 - イベントサポート

○ 消防署、防災専門家 - 訓練・講習会等

○ 日野市、他の自治会 - 適切な避難場所の検討・提供等、
活動支援、事例共有、学校への働きかけ等

○ 管理組合（共同住宅）

○ 地域の大学生への呼びかけ

iii) 組織運営

○ 防災組織の単位

○ 自治会運営

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

2．防災活動 – 住民主体で持続的な活動を目指す仕組み
i) 防災教育×イベント – ① 子育て世帯向け

子育て世代は「南新井まつり」への参加希望が多く見られた。その意図が“子供の楽しみ”や“交流”を期待するものであれば、「南新井まつり」に限らず、子供の楽しめるイベントであればよいのではないか。
防災教育を兼ねた子供向けイベントを検討する。

防災教育×イベント	（参考事例）
子供（~小学生）・子育て世帯向け	
（防災探検隊）	https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/bousai_sp/
（防災トランプ）	https://bousai-trump.jp/
（「イザ！カエルキャラバン！」）	http://kaeru-caravan.jp/whats

©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

2．防災活動 – 住民主体で持続的な活動を目指す仕組み
i) 防災教育×イベント – ② 住民の連帯感の育成による参画

専門家やNPO、ボランティア団体等の協力も得て、住民参加型ワークショップ等により、
- 住民の当事者意識や連帯感を育成し、地域のネットワークづくりに役立てる
- 自主防災の意識が芽生えることで、多くの住民参加による主体的な活動を目指す

（参考事例 1.）

("DIG")　**Disaster―災害―、Imagination―想像力―、Game（ゲーム）**

https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/ippan/cat/cat5/cat2/dig.html

①災害を知る

防災を考える上でまず必要なのが、自分のまちで起こる可能性のある災害のイメージを持つことです。「どこで、どのような規模で、どういう被害の発生が予想されるのか」自分で地図に書き込んでいくうちに災害をより具体的にイメージできるようになるはずです。そして、被害を減らすために必要な対策についての理解も深まるでしょう。

②まちを知る

普段の生活の中で地図と接する機会はそれほど多くはありません。しかし地図にはさまざまな情報があります。「まちの構造はどうなっているのか」「危険な場所や注意しなければいけない施設はどこか」地図に書き込んでいくにつれて、自然と地域を見直し、自分のまちがどのようなまちなのか、自分のまちの災害に対する弱さや強さがより身近なものとして感じられてくるのです。

③人を知る

「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか？」「近所に手助けが必要な人はいないか」といった情報を地図に書き込んでいきます。この作業を通じてまちに「人材目録」が作られます。さらに、ワイワイ、ガヤガヤとみんなで作業を進めるうちに参加者の間で連帯感が生まれ、信頼関係が育まれていきます。

出典: 総務省消防庁 防災・危機管理eカレッジ

（参考事例 2.）

（ワークショップ例：青森県）

<目的>
「防災」をキーワードとして地域コミュニティの再生を図るとともに、参加者が地域で想定される被害について認識を共有し、その災害に備えるために必要と思う実践的な訓練を地域が主体的に考え、実践することで地域防災力の向上を目指す。

【訓練対象災害決定ワークショップ】
訓練の対象とする災害について、地域の実情や切迫度などを勘案して決定するワークショップを開催した。H28 年度は川の水害に決定した。

【川を知るワークショップ】
訓練対象災害が川の水害に決定したことを受け、川の恐い面だけではなく、いい面も知るとともに、訓練内容検討のきっかけとするためのワークショップを開催した。
前半は、子どもたちを対象とした川に親しむための水生生物観察、後半は、大人を対象とした川に関する講演及び演習を実施した。

【訓練構築ワークショップ】
これまでのイベントを踏まえて、地域の現状として何ができて、何ができていないのかを考え、実施する訓練の内容を検討するワークショップを開催した。

【実動訓練実施】
検討してきた内容に基づいて、実動で訓練を実施した。

【振り返りワークショップ】
取組を根付かせるため、訓練の振り返りや今後の継続実施に向けた検討等を行うためのワークショップを開催した。

出典：「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」第11回知事会合（H30年1月）
地域の絆と災害に強い地域づくり施策事例集

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

2．防災活動 – 住民主体で持続的な活動を目指す仕組み
i) 防災教育×イベント – ③ 高齢化を支える

高齢者のみ（単身者・夫婦のみ）の世帯が多く、地域活動への積極的参加が難しいケースも増加していくと考えられる。
高齢者が孤立しないよう、住民主体の活動の中で地域の実態に合った対策を考えたい。

防災教育×イベント	（参考事例）
顔が見える関係を築く – 日常の継続的な交流 （「ふれあいサロン」を活用）	（例）町内は高齢化が進んでおり（約40%）、町田市の高齢化率26%よりかなり高い。「何もできないから」と辞める高齢者も出てきている。 改めて隣近所の顔が見える関係を築くこと、コミュニケーションを育むことも防災活動の一環と考え、「お茶会」を行うことを呼びかけ参加費を防災活動費から出す。（町田市/南町田自主防災組織）
（中高生ボランティアと地域の高齢者との交流）	（例）高層階居住の高齢者へ生活援助を行う中高生のチーム「ジュニアレスキュー隊」の結成、具体的な災害をシミュレートした実践的な総合防災訓練などを行っている。（よこすか海辺ニュータウンソフィアステイシア自主防災会） （例）荒川区立南千住第二中学校レスキュー部の活動の１つ「絆ネットワーク(*)」： 防災意識の向上と地域貢献を目的に結成された活動で、当初70名ほどであった部員は、４～５年後には200名強までに。 大災害発生時に支援が必要となる高齢者と日常的に顔見知りになることを目的とした取り組みで、毎月１～２回の活動を継続的に行っている。 (*)災害発生時の安否確認、避難誘導、避難所における支援がスムーズに行えるようにすることを目的に、毎月地域の高齢者宅を訪問して防災関係リーフレットや学校だより等を手渡し、支援が必要な住民と部員が顔見知りになる活動

出典：東京都総務局　地域防災活動活性化サポートガイド
消防庁　防災まちづくり大賞 受賞事例集

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

2．防災活動 – 住民主体で持続的な活動を目指す仕組み ii) 外部関係者との連携

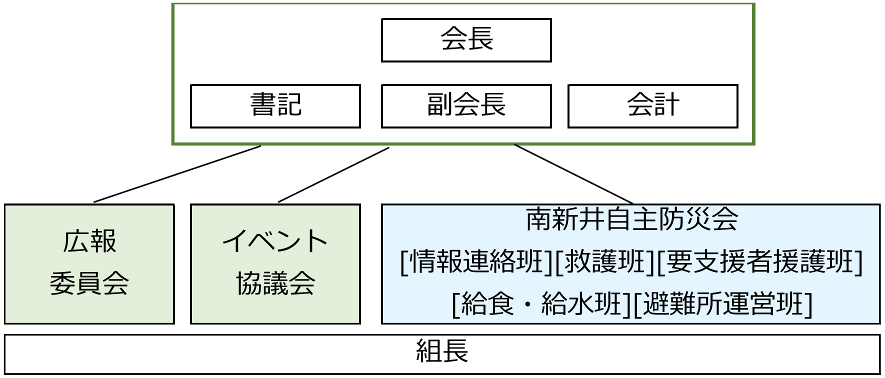
外部関係者との連携	（参考事例）
○ NPO団体等 - イベントサポート ○ 南新会（お祭りの代わりに防災イベントのサポート？）	（例：一般社団法人 D&A Networks、NPO法人 プラスアーツ) https://www.d-and-a-networks.jp/ http://plus-arts.net/
○ 消防署、自治体防災担当等の専門家 - 訓練・講習会等	
○ 日野市、他の自治会 - 適切な避難場所の検討・提供等、活動支援、事例共有、学校への働きかけ等	
○ 管理組合（共同住宅）- 組織運営の協力等	（例）防災組織の会議メンバーを管理組合と自治会役員の半々の構成とすることで、コミュニケーションがよくなり、防災活動に必要な予算の意思決定も進みやすくなった
○ 地域の大学生への呼びかけ	（例）一般社団法人のサポートで、大学生ボランティアの参加呼びかけ （例）学生向け賃貸マンションを、家賃を少し安くする代わりに防災活動等の地域活動に参加することを制度化。（千代田区/神田淡路会）

出典: 東京都総務局　地域防災活動活性化サポートガイド
消防庁　防災まちづくり大賞 受賞事例集

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

2．防災活動 – 住民主体で持続的な活動を目指す仕組み iii)自主防災組織

＜南新井自治会の自主防災会＞



広報活動	南新井まつり	・前年度役員が、経験した役割班の支援者として継続参加
IT化推進	芋煮会	
	清掃活動	・役員以外の防災意識の高い人が参加可

❑ **目的・機能：**

行政や、消防などの公共防災機関では把握しきれない地域の特性を考慮した、きめ細かい防災活動

- 災害に弱い箇所を把握している
- 年配者などのいわゆる要援護者がどこに住んでおられるか、いざとなった時にどのように安全な場所に移動させることができるか

等の具体的な情報をもっていること

（参考例）- 千葉県習志野市 /本一町会自主防災部：住民約800人

〇 最小単位：

地震時はまず安否確認、火災時は初期消火が重要であり、”早く”&”漏れなく”、その基本単位は「向こう三軒両隣」。
高齢化が進んでも近所で助け合うことが可能な範囲を担う「防災協力員」体制を設けた。
「防災協力員」は応募を行い、町会長が委嘱状を交付することにより依頼され、名簿と配置図の維持管理により体制維持を図っている。

〇 参加モットー:

「できるときに参加し、できる人ができることを行う」「助けてもらうためにやる」。
８年前に48名で始まった防災協力員は118名に増えた。
２年任期であるが、退任を申し出ない限り自動更新する。定年制もない。新たに越してきた子育て世帯の住民も防災協力員に多く加わっている。

〇 組織体制:

当初マニュアルに沿って７～８班体制であったが、役割分担よりも有事の際の動きやすさを優先して、「実行・実働班」「情報連絡班」「支援・補給班」の３部門体制に統合した。
応急活動の内容は時間の経過に応じて変えていけばよいとの考えだ。

SERVICE GRANT
Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

防災を軸としたイベント・活動へのシフト

～防災活動と防災以外の活動をバランスよく実施するために～

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

防災以外のイベント案 – すでに存在する活動を活用

アンケート調査で、希望が多かったイベント：

イベント	年代	目的/内容
お祭り	全世代	・子供（＆子育て世代）が喜ぶ ・どの世代も楽しめる
清掃活動	全世代	・地域の美化、環境保全
ふれあいサロン (喜楽会サークル活動)	70・80代	（運動・ゲーム）：輪投げ、囲碁、グラウンドゴルフ （運動・健康）：太極拳、健康体操、歩こう会 （アート）：藤工芸、絵画、園芸
世代間親睦・見守り活動	全世代	
日常困りごと助け合い	全世代	

子どもから高齢者まで気軽に楽しめ、世代間交流も兼ねる

（将来的に）
LINE活用により、助け合い活動等へ繋げられる可能性

【清掃＆花咲かそう活動】
ふれあいサロンの庭（園芸）と清掃活動を組み合わせ
https://ksd15.jp/entry/2018/05/186/
http://www.town-haruhino.join-us.jp/event_ryokka.html

高齢者 × 子ども育成 & 子育て世代

【軽スポーツ大会】
輪投げ、囲碁ボール、グラウンドゴルフ
その他（ソフトバレー、キックベース）
太極拳を習う

・コロナ禍の運動不足解消に！
・**子育て世代のお父さんを誘う**
⇒ ネットワークができ、自治会業務のIT化などにも参加してもらえる可能性も

【アート教室】
工芸教室、絵画教室、園芸教室

【スマホ・IT講座】
子ども～学生から高齢者向けにスマホ等の知識を共有する

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

他自治会等の事例

スポーツ大会による地域交流

市原市若宮団地自治会
＜軽スポーツ大会＞

スポーツを通じて地域住民の交流をはかり、”ともに育むまちづくり”の機会として～

初めての方でもすぐにゲームを楽しめるのが軽スポーツです。

http://wakamiya-rengo.jp/custom12.html

南青梅６丁目自治会
＜町内スポーツ大会＞

子どもたちによる選手宣誓、参加者全員のラジオ体操の後、グラウンドゴルフによる始球式を行い競技に入りました。ゲートボール、ビーチボール、輪投げ競技、ソフトボール、キックベース、グラウンドゴルフと、子どもからお年寄りまで楽しめるようなさまざまな種目が実施され、それぞれ得意な競技に汗を流しました。

大会当日は、初夏を思わせるような暑い日となりましたが、暑さに負けないような熱戦が繰り広げられ、応援にも力が入りました。

世代を超えてみんなで楽しめるこの大会で、今後もますます地域のつながりを深めていければと思います。

https://www.ome-rengou.jp/contents_detail.php?co=kak&frmId=3970

地域の美化・環境保全（緑化）活動

中川中央町内会

http://nakagawachuo.namaste.jp/

11月8日（日）清掃活動＆花植え

2020年11月13日 / 大塚

2020年11月投稿, 記事, 環境美化活動

ラジオ体操の後、清掃活動を実施しました。センター北広場公園プランターに花苗と球根を植えました。

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

南新井まつりの代替イベント

オン・オフラインを活用したバーチャル南新井まつりを実施

出店のオンライン注文

オンライン事前注文 ▶ **会場にて受け渡し**

※紙面申込も準備

自治会公式ＨＰ・LINEアカウントからアクセスし、事前注文
会場では注文分のみ受け渡し

参加者：出店を探す**ワクワク**感が味わえる

自治会：公式HP・LINEアカウントの認知・登録をGET

オンライン抽選会

オンライン抽選　**ご自宅にて鑑賞**

※録画・回覧板でも周知
※ふれあいサロンを活用

オンラインにて抽選会を実施し、参加者は、自宅にて鑑賞

参加者：当てものの**ドキドキ**感が味わえる

自治会：南新井地区の一体感の醸成 (最後に)活動紹介

その他イベント案

ハッピ着て！はいポーズ！

※公式HP・LINEアカウントへ投稿

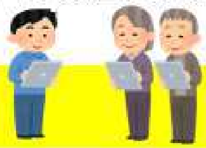
オンラインみこし

ドライブインシアター

浅川deシアターもありか

その他

スマホ教室
シニアのために、定期的なスマホ教室を開催等



SERVICE GRANT
Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

負担を軽減 ＆活動活性化のための運営体制

～役員の負担軽減の取り組みと会員区分について～

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

四役・組長の負担軽減について

任意関連団体へのアウトソースに加え、**更に四役・組長の負担軽減を検討**する

役割	課題	具体的な取り組み
組長・副会長	・市や諸団体の会合参加が多い。時間を拘束される。	・市や諸団体に対して、リモートの活用や、緊急性、重要性を踏まえた取捨選択を要望。 ・自治会の負担軽減が、地域自治のためになることを訴える。
書記・組長	・会議が多く、会議の数だけ準備や参加による時間拘束が発生する。	・会議の目的について、議論の場なのか、決議・報告事項の場なのかを明確化。 ・議論の前提となる資料等は、事前に共有する等し、会議数の削減と時間短縮に取り組む。（任意関連団体へ可能な限り権限移譲することも検討） **→目標：組長会の会合数の半減**
	・市や諸団体からの回覧物が多く、回覧版の仕分けと配達に忙しい。	・市や諸団体に対して、イベント等の回覧については、最低2ヵ月前の時点で周知してもらうよう依頼する。 ・緊急性の高いもの以外は、期限等を敢えて無視する。 **→目標：回覧板の配達回数1回/1.5ヵ月**
共通（任期）	・業務を理解する頃には任期1年が終わる。 ・業務の改善や新規取り組みを検討する時間がない。	・任期の延長は、負担増と捉えられる恐れがあるため、前年四役が就任する顧問の位置づけをより積極的な参画へ変更。新役員の任期中の負担を軽減する。

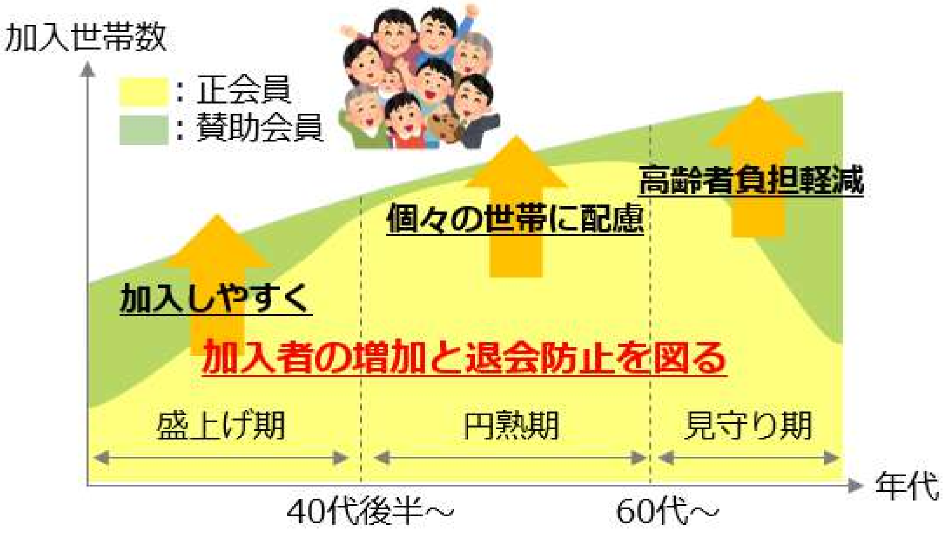
会員区分の見直しについて

自治会加入者の増加と退会防止のため、**賛助会員制度の役割を見直す**

◇賛助会員の役割

これまで	今後
目的：高齢者の役員負担軽減 内容：役員の免除と議決権の権利放棄 活用：受動的（申し出主義）	目的：**多様な属性・世帯環境の受け皿** 内容：役員の免除と議決権の権利放棄 　　　**イベントへの積極参加（特に若年世代）** 活用：**積極的（個々の状況に応じて選択可）**

◇正会員と賛助会員の活用・役割イメージ



正会員

円熟期
運営に関わる

賛助会員

盛上げ期
イベント積極参加

見守り期
地域のご意見番

自治会員それぞれの状況を踏まえ、公平性の順守から、多様な参画を可能にする柔軟な会員区分の運用にシフト

負担を軽減 ＆活動活性化のための運営体制

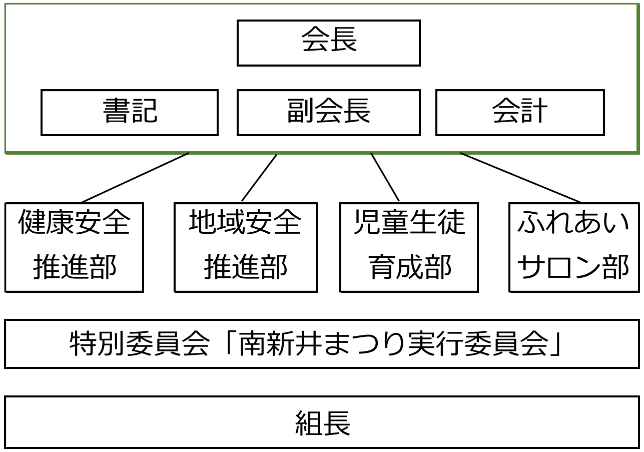
～広報委員会、イベント委員会～

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

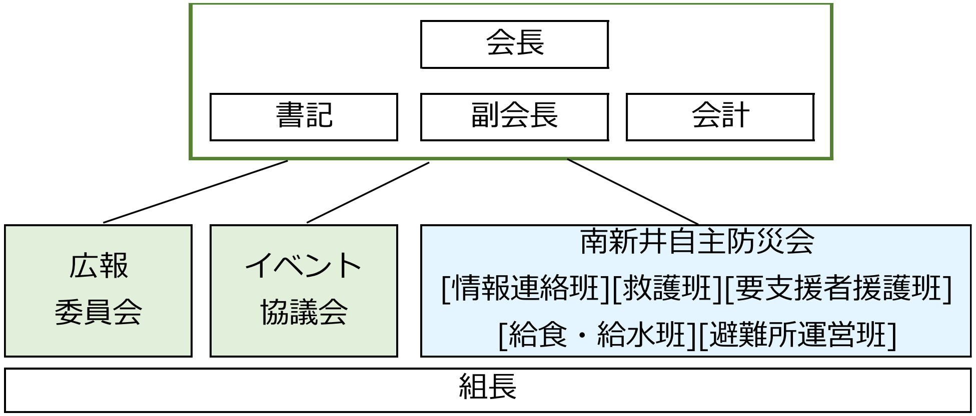
南新井自治会の今後の組織運営体制の理解

- 南新井自治会の今後の運営体制について、以下のように理解しました
- 広報委員会およびイベント協議会が実働部隊として組織されることで、役員業務の負荷軽減につながるように両委員会を機能させることは重要と理解しました。

＜従来の体制＞



＜今後の体制＞



広報活動
IT化推進

南新井まつり
芋煮会
清掃活動

・前年度役員が、経験した役割班の支援者として継続参加
・役員以外の防災意識の高い人が参加可

従来の自治会部会と自主防災会の役割の関係

・健康安全推進部(健康と安全より) ⇒ 救護班
・地域安全推進部(地域の安全全体を推進することより) ⇒ 情報連絡班
・児童生徒育成部(育成より) ⇒ 給食・給水班
・ふれあいサロン部(サロン運営より) ⇒ 避難所運営班

SERVICE GRANT
Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

広報委員会の集め方について

広報委員の求める人物像から、訴求場所や訴求文言等を検討しました。
今回別パートでご提案する「LINE・HP運用」を踏まえ、南新井自治会保有媒体の情報を整理する
①**アドバイザー**と毎月の更新や運用を行う②**実運用者**に分けて募集をすることをご提案します。

	アドバイザー	実運用者　※特に募集したい
求める役割/条件	主にオンライン媒体の**ルールやデザインを整理**する └HP作成などの基本を理解している └デザイン・情報設計が出来る	今ある各種媒体を利用し、毎月**情報を更新、運用**する └発信することに興味がある └広報に興味がある
募集場所	**外部募集サイト**、公式HP、LINE、大学ボランティア、日野市のボランティアセンター	**教育機関（大学ボランティア）、学生が住む家にポスティング**、公式HP、LINE、日野市のボランティアセンター、外部募集サイト
活動内容	公式HP、LINEの運用アドバイスやレイアウト等基本ルールの作成（ガイドライン）	自治会頼り、メーリングリスト、LINE公式アカウント、掲示板の更新と運用
参加方法	オンライン参加可能 「週3時間程度の活動量」など稼働時間提示	基本、オンライン参加可能 イベント開催時は現地集合もあり 稼働目安時間はこちらも提示
活動期間目安	３ヶ月程度	約1年ごとに継続意思確認
訴求メッセージ	**裁量を持って活動**できる 広報活動のスキルアップが可能	未経験でも可能、仲間もできる 経験や**学習の場として活用**できる
募集人数	1、2名	3、4名

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

イベント委員会の集め方について

イベント委員の求める人物像から、訴求場所や訴求文言等を検討しました。

	イベント企画運用担当者
求める役割/条件	南新井自治会地域住民が楽しめるイベントを企画運営を行う **└イベントの企画運営を楽しめる人** **└周りを巻き込める人** **└最後までやり遂げられる人**
募集場所	公式HP、LINE、外部募集サイト、教育機関（大学ボランティア）、日野市のボランティアセンター、学生が住む家にポスティング
活動内容	オンライン、オフライン関わらず、住民の方が楽しめるイベントの企画、準備、当日の運営を行う
参加方法	オンライン参加可能 「週3時間程度の活動量」など稼働時間提示
活動期間目安	イベントによる（具体的な企画・準備含め３ヶ月程度）
訴求メッセージ	企画から運営まで一気通貫して関われて達成感もある **裁量を持って活動**できる
募集人数	特に制限はなし（4、5名は欲しい）

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

制作物イメージ　～ 広報委員実運用者募集チラシ ～

最初から経験者OKを訴求することによって、「私もできるかも」と思って読み進めてもらう

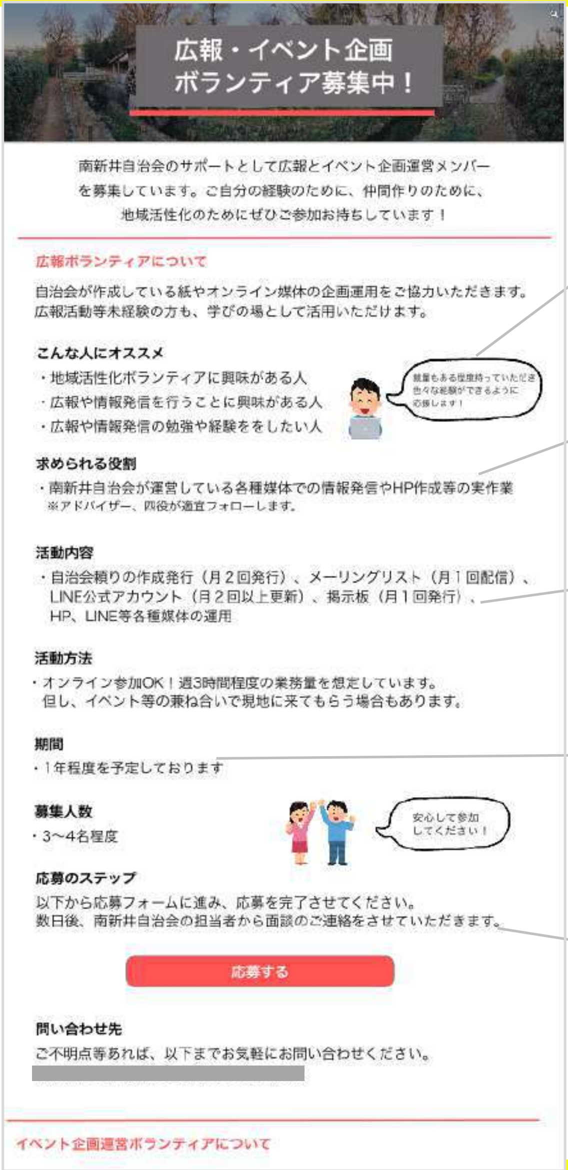
勉強しながらでも良いこととし入口を広げる、また自治会でフォローすることも明示する

自分も出来そうかを判断してもらうために、どんな人にオススメかを明示する

情報が多いと読むことを諦めてしまうことが考えられるため、**チラシでの情報は興味喚起にとどめ、気になった人は公式HPへ誘導**する

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.

制作物イメージ　～ 広報委員実運用者募集公式HP～



広報・イベント企画
ボランティア募集中！

南新井自治会のサポートとして広報とイベント企画運営メンバーを募集しています。ご自分の経験のために、仲間作りのために、地域活性化のためにぜひご参加お待ちしています！

広報ボランティアについて

自治会が作成している紙やオンライン媒体の企画運用をご協力いただきます。
広報活動等未経験の方も、学びの場として活用いただけます。

こんな人にオススメ

・地域活性化ボランティアに興味がある人
・広報や情報発信を行うことに興味がある人
・広報や情報発信の勉強や経験ををしたい人

求められる役割

・南新井自治会が運営している各種媒体での情報発信やHP作成等の実作業
※アドバイザー、四役が適宜フォローします。

活動内容

・自治会報りの作成発行（月２回発行）、メーリングリスト（月１回配信）、LINE公式アカウント（月２回以上更新）、掲示板（月１回発行）、HP、LINE等各種媒体の運用

活動方法

・オンライン参加OK！週3時間程度の業務量を想定しています。
但し、イベント等の兼ね合いで現地に来てもらう場合もあります。

期間

・１年程度を予定しております

募集人数

・3～4名程度

応募のステップ

以下から応募フォームに進み、応募を完了させてください。
数日後、南新井自治会の担当者から面談のご連絡をさせていただきます。

応募する

問い合わせ先

ご不明点等あれば、以下までお気軽にお問い合わせください。

イベント企画運営ボランティアについて

ただ運用するだけではなく、ある程度の裁量は持てることを伝える
（モチベーションアップ）

フォローがあることを伝えて、「できるか不安」を払拭する

各媒体の活動頻度も目安を提示して、継続して参加できるか判断してもらう

活動期間1年程度あると知見等たまって良いのでは

HPから簡単に応募へ進めるように導線を設置する

SERVICE GRANT

Copyright©2021 Service Grant Japan. All Rights Reserved.